

2014 年 9 月 18 日

(学)新名学園旭丘高等学校

発行者 理事長・学校長 水野浩

2 年生の池淵健二郎くんが小田原市長賞を受賞

小田原ライオンズクラブ主催

第 30 回イングリッシュ・スピーチ・コンテスト

9 月 15 日（月）13 時から小田原市民会館小ホールで開催された小田原ライオンズクラブ主催「第 30 回イングリッシュ・スピーチ・コンテスト」に旭丘高校から、2 年生の池淵健二郎と北野絵里花さんが参加し、池淵健二郎くんが小田原市長賞を受賞しました。

コンテストには、小田原の地域の高等学校 7 校から 22 名が参加。旭丘高校の生徒では、昨年の永長くん（当時 1 年生）の会長賞に続く 2 年連続の入賞です。

池淵くんのスピーチは、「Be Brave」と題したもので、旭丘高校で生徒会活動に参加することを通して、過去にイジメにあったマイナスの体験を現在は人や社会と積極的にかかわるプラスの生き方へと転化させ、勇気をもってゆきたいと訴えています。



①表情豊かにスピーチする池淵くん



②受賞式にて



③真ん中が池淵くん、右が北野さん

Be Brave

Asahigaoka High School 2nd Grade
Kenjiro Ikebuchi

I used to have a best friend in Junior High School. One day, He came to me and began telling me hurtful words. I thought it was a joke and I didn't care much because we were best friends. But as days passed, the bullying escalated. He started punching me, ripped my notes and wrote mean words on my desk. I didn't tell anyone about the bullying because I got scared that it might get worse.

As I entered Asahigaoka High School, I told myself that this would be a chance to be approved and to fight for myself. So I joined the student council. This was because I knew it would be a great opportunity for me to help people, especially those who are being bullied. I wanted to help them out because I knew how it feels to be alone and to feel vulnerable.

In the student council, we did a lot of projects to stop bullying. One of those was a big gathering with other schools. I happened to talk about the problems at school with many seniors who have a lot of experience. They kindly gave me a lot of advice and shared experiences of their own. I was deeply moved by their brave stories.

Thanks to the meeting and tasks in the student council, I've got to think that I've become more socialize and active than I used to be, and know I wasn't the only one who struggle with his or her past. I promise myself that I will continue to tackle problems each student has and to give them happy high school lives, with my bravery.

Thank you for your listening.

勇気を持つこと

旭丘高等学校 二年

池淵 健二郎

私は中学校で友人が一人おりました。ある日、彼は私のところに来て、心ない言葉を言い始めました。私は、ジョークと思い、気にも留めませんでした。というのも、最高の友達だったからです。しかし、日が経つにつれ、いじめはエスカレートしていきました。彼は、私を殴り始め、ノートをちぎり、机には汚い言葉を書き連ねました。私は、いじめについて誰にも話せませんでした。さらに悪化するのではないかと恐れたからです。

私は、旭丘高校に入学したことで、自分自身が受け入れられて、自分に甘くならず戦うための機会になるようにと自分に言い聞かせました。だから、私は生徒会に入りました。そのことによって、困っている人、特にいじめられてきている人を助けていくことは、私にとって良い機会になっていくものとわかったからです。一人ぼっちになったり、ひどく傷ついていくことがどういうことかわかっているからこそ、いじめられてきている人たちを全力で救いたかったのです。

生徒会では、いじめを止めるたくさんの計画を立てました。その計画の一つは、他校も集まる大きな集会です。たくさんの経験を持つ、高校三年生の先輩方と学校での問題について話す機会がありました。先輩方は親切にたくさんのアドバイスを私にしてくれました。そして、彼らの経験を教えて頂き、勇気ある話に深く感動したものでした。

この大きな集会や課題のおかげで、私は以前よりも社会的に、活発になれたと思います。また、一人ひとりの過去に向き合っているのは、私一人だけではないとわかりました。私は誓います。私の勇気で、一人ひとりの持っている問題に取り組み、みんなが充実した高校生活を過ごせるようにしていきたいです。

ご清聴ありがとうございました。